

# PRESENT

アンケートに答えてプレゼントをGETしよう!

応募締切  
11/1~11/30

**A** 創作足袋 千代の松  
創作柄足袋

※色や柄は  
選べません  
※サイズは  
24cm



イメージ | 1名様

8ページで紹介した創作足袋 千代の松の「創作柄足袋(24cm)」を1名様にプレゼント!

**B** simple hair & cafe  
木のお箸、スプーン、  
しゃもじセット



| 1名様

9ページで紹介したsimple hair & cafeの「木のお箸、スプーン、しゃもじセット」を1名様にプレゼント!

**C** 逸見織物  
バッグブローチ



※色や柄は  
選べません

5名様

14ページで紹介した逸見織物の「バッグブローチ」を5名様にプレゼント!

秩父鉄道ホームページ内の  
応募フォームからお申し込みください。

秩父鉄道 検索 または



当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。また、重複応募は無効とさせていただきます。※皆様の個人情報は、個人が特定できない範囲での統計データ作成・プレゼント当選時の発送の連絡のみに利用します。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用又は第三者に提供することはありません。なお、賞品発送業務は㈱コアに委託をしています。また、賞品の発送は提供元からお送りすることもあります。

### 定期購読のご案内

「PALETTE」を毎月ご希望の方に郵送(1,000円・1年分)でお届けします。くわしくは下記までお問い合わせください。

秩父鉄道 企画部  
048-523-3313  
平日9:00~17:00

### 編集後記

今月から「秩父鉄道ニュース」は「PALETTE」として生まれ変わりました。今後とも、沿線の魅力的な情報を発信していきますのでよろしくお願いいたします。写真は「空&閑」取材時の1枚。紅茶の缶が並んでいるだけの構図ですが、角度を変え位置を変え、何十分も掛けてベストショットを導き出しているのです。次号もぜひお付き合いいただければと思います!



## きどりストーリー



沿線できがやきつづける方に  
インタビュー!  
第1回 逸見恭子さん(逸見織物)

S1運行30周年を記念して、秩父銘仙と秩父市出身の林家たい平さんの版画をセットにした記念乗車券が登場! 秩父銘仙の老舗織元・逸見織物さんにインタビュー。

華やかな花柄から丁寧に手間をかけて整経された縞や格子まで、思わず見とれてしまう秩父銘仙。国の指定伝統的工芸品であり、秩父夜祭の男衆の揃い袖としても知られるこの絹織物は、崇神天皇の時代に知々夫彦命が秩父に養蚕と機械の技術を伝えたことがはじまりで千年以上の歴史があると言われている。特に明治・大正時代、昭和の初期にかけて隆盛を極め秩父の一大産業として発展した。手軽な女性のおしゃれとして世を風靡した秩父銘仙だが、実は、日本の近代化に伴い女性が少なくなると共に進出するようになり、その背中に後押ししてきたことが爆発的な人気に拍車をかけていた。かつて



欧州でシャネルがそうしたように。そして今、これらの伝統技術を受け継ぐのが老舗「逸見織物」の3代目、逸見恭子さん。秩父銘仙の特徴は何と言っても経糸と緯糸の色を違えて織ることで生じる『玉虫効果』で、見る角度や光のあたり加減で全く違う色に見えることと。そして何となくも絹織物独特の軽さ。生地には裏表がないので、昔は、表が汚れたら裏返しで仕立て直し、また着ることが出来ました」と話す。

「染め織物の多くは先染めをしますが、秩父銘仙は整経した経糸に仮織りをして型染め(ほぐし捺染)をし、その後仮織りの糸をほぐしながら織り(ほぐし織り)上げます。この『ほぐし捺染』と『ほぐし織り』の技法によって生地に裏表がなくなり、物を大切に作る昔の人の思いに寄り添ったものづくりで、しかも絹なのにお値段が安かったんです。」と恭子さん。

そんな恭子さんが3代目を引き継いだのは今から30年前。「祖父が体調を崩したのをきっかけに、継いでみないかと言われたんです。当時は美容師として働いていましたが、子供の頃から工場が遊び場でしたから『継ぐ』ということに、特に抵抗はありませんでした」と語る。

最盛期には秩父地方の人口の実に7割が秩父銘仙に関わる仕



逸見織物  
埼玉県秩父市黒谷1463  
0494-22-0708  
※事前予約で工房の見学も可能

事をしていたといわれ、500軒ほどあった工場も、現在は10軒足らず。着物の需要が減り続ける中で、恭子さんが打ち出したのは「まずは、秩父銘仙を気軽に親しんでもらおう」という方針。

服地として提案してみたり、ストールやポーチといった小物の商品開発をすることで新たな可能性を模索している。展示会などで、これは!と思う人に出会ったら、「コラボレーションしませんか」と声をかけることもあるそう。陶芸作家さんと作った針山や工務店さんと開発した建具など多岐にわたる。そんな彼女の熱意は着実にファンを広げているようだ。

「最近では、『自分の織機で秩父銘仙を作ってみたい!』という人も増えてきました。今後はそんなコアなファンのために、専用のスペースで教室のようなものもできたら、と考えています。伝統を引き継ぐだけでなく、変化しながら維持させていく。長らく続いていく老舗の真髄とは、こういうものなのかもしれない。」

創業以来  
秩父の自然に育まれた  
伝統の技と味

ヤマブ新井武平商店は創業以来、秩父味噌、ヤマブ醤油、秩父おなめ、また秩父味噌を使ったお菓子やおせんべい、お漬物など、秩父のこだわりの味づくりを重ねてまいりました。懐かしいのに新しい、そんな味わいを是非一度お試しください。

秩父おなめ

埼玉県秩父郡皆野町皆野573-2  
0494-62-0156 Fax0494-62-3320

ナチュラルファームシティ  
農園ホテル

本誌を受付にご提示ください  
ご宿泊のお客様に  
グラスワイン  
1杯サービス  
2017年  
11月末まで有効

0494-22-2000 Fax0494-23-2000  
秩父市大宮5911-1 http://www.farm-city.co.jp

秩父温泉  
清願の湯

本誌を受付でご提示ください  
10%引き  
2017年  
12月31日まで有効

露天風呂「黄金の湯」  
料理「黄金めし」

0494-62-3026 秩父温泉清願の湯  
秩父郡皆野町大字下野沢4000 無料送迎有・要予約